

ブランディング論
サイン篇

サイン計画篇

人々の行動のよりどころとなる情報を具体的なかたちで表したものを「サイン(SIGN)」といいます。

1. 与件整理・ニーズの把握と情報収集・データの分析

サインデザインにあたっては、新しい施設などの建設に伴ってサインを計画する場合や、既存のものを改良またはリニューアルする場合など、さまざまな前提条件があります。また、例えば駅や役所などの公共施設と、デパートや遊戯施設などの商業施設では、サインに求められるニーズが異なってきます。

さらに、サインとファサードが一体化しているようなものもあります。

それらの条件やニーズを把握することから「サインデザイン」は始まります。

新規に計画された施設の場合では、その施設全体のテーマを理解したり建築図面をくまなくチェックしながら、サインがどのようにあるべきかを検討していきます。既存施設のサインのリニューアルなどの場合では、現地調査により、どこにどのようなサインが設置されているか、どのような問題が起きているかなどの項目について情報収集し、新たなサインによって解決すべき課題を明確にする作業をおこないます。

2. デザインテーマの策定とサイン計画の立案

建築計画とも調整しつつ、サイン全体のデザインテーマを策定し、具体的なイメージにまとめていきます。

現地調査などで得られたデータをもとに、建築図面や完成予想図などの中で人々の動きを想定しながら、どのような内容の情報を、誰を対象として、どこに、どのようなかたちで表示するかを検討し、サインの全体像を立案していきます。

この作業のことを「サイン計画」といいます。

小さな店の看板などでは数点程度計画すれば良いものもありますが、ターミナル駅や空港、複合商業施設などのように広大・複雑な構造で、不特定多数の利用者が想定される場合は、さまざまな種類のサインを考案し、それらが相互に連係しながら機能するようなサイン計画を展開していきます。

地図やフロアガイドのように、街や施設等の全体像がわかるように図示して案内するもの、矢印などによって順路や方向を示し誘導するもの、地点や店舗などの位置情報を看板のように掲示するもの、禁止事項を告知したり注意を喚起するものなど、そのはたらきによっていくつもの種類のサインがあります。

このような多数のサインを空間においてそれぞれ十分に機能するように適切に配置して、ひとつの大きな情報システムとして総合的に組み立てたものを「サインシステム」と呼びます。

またユニバーサルデザインの考え方や、多国語表記、ピクトグラム（図記号）を積極的に採り入れるなど、より多くの人々が快適に行動できるように、情報をわかりやすく伝えられるようにさまざまな面について配慮します。

3. グラフィックデザイン（表示内容の検討と表示面の設計・制作）

人は通常、外界からの情報の8割以上を視覚によって得ていると言われています。したがってサインもそのほとんどが視覚的に表現されたものとなります。

文字や記号、図形や色などの視覚に作用するさまざまな要素を活用して、多様な情報を見やすくわかりやすいものとするために、サインの表示面を整理しながら設計・制作することを「グラフィックデザイン」といいます。

例えば、伝えたい情報を言葉で表現するか、図や色などのような言葉ではないもので表現するか、また言葉で表現する場合はどのような語を用いるかなどの、さまざまな事柄についての深い考察が必要となります。またそれぞれの情報の重要性や優先順位、表示する目的や意図などを勘案し、それに応じて文字の大きさや色彩に変化をつけるなどのさまざまな工夫をおこないます。

一方、サインの表示は機能的でなければならないことはもちろんですが、美しくあることも重要です。機能性と美しさは時に相反する場合がありますが、これを上手に解決するのが「サインデザイナー」の腕の見せ所のひとつです。

4. プロダクトデザイン (サイン本体の設計・制作)

サインデザインにおける「プロダクトデザイン」とは、サインを表示するために必要なフレームや支柱などの本体のデザインや機械的な装置の製作などの「モノ」づくりのことをいいます。

情報内容を表示するのに必要な表示面の大きさや建築的な制約などのさまざまな条件を考慮しながら、サイン本体のサイズや形を決めていきます。検討の際には縮小模型や原寸のモデルを試作したりして細かく確認していきます。

また、サインの見やすさを確保するために照明を設けたり、サインによって利用者が怪我をしないようにしたり、メンテナンスがしやすい構造とするなど、単にサイズや形だけでなくさまざまなことへの配慮も必要となります。例えば屋外設置のサインでは風雨や日光などにも耐えるようにするなど、設置される場所の特性も考慮しなければなりません。

そして、本体に使用する素材についても、単に強度や加工性、耐久性を求めるだけでなく、質感や美しさ、デザインテーマなどを適切に表現するように検討を重ねていきます。

5. サインの製作、工場でのチェックと現地への設置・施工・チェック

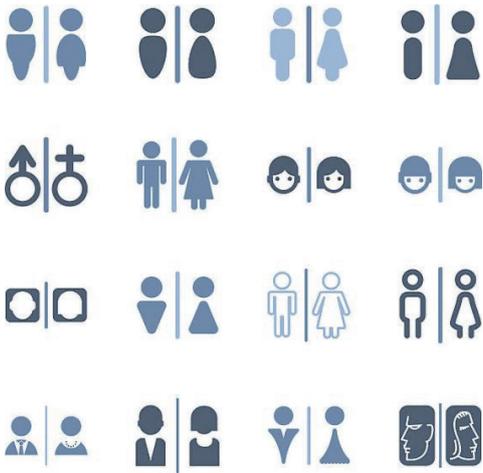
6. サインの評価、メンテナンス、アップデート対応

※CM食堂制作事例

- ① プラスニエヒメ
- ② カフェヨシダ
- ③ 長谷川歯科医院
- ④ 餡ファン
- ⑤ SOVA SOVA
- ⑥ 風、さらさら
- ⑦ 三日月とカフェ

トイレのサイン

さまざまなデザインが表現されている



オリンピックサイン (ピクトグラム)

